

令和8年3月15日
第122号

真鶴 自治会だより

皆、皆が住みよい町に

- ① 特別委員会／原則第三火曜日に開催し、各自治会の会長が出席します。7年度は12回開催されました。町などからの回覧依頼、連合会長が出席した審議会などの報告、各部からの報告を受けました。
- ② 部会活動
- ③ 町や諸団体への共催・賛

- ④ 防災研修会／6月21日(土)「避難時運営ゲームHUG」を開催しました。
- ⑤ 視察研修会／11月11日(火)静岡県松崎町を訪問し避難訓練など防災について考えました。
- ⑥ 防災研修会／6月21日(土)「避難時運営ゲームHUG」を開催しました。
- ⑦ 視察研修会／11月11日(火)静岡県松崎町を訪問し避難訓練など防災について考えました。
- ⑧ 部会活動
- ⑨ 町や諸団体への共催・賛



⑩ 荒井城址公園しだれ桜宴／3月19日(木)提灯の取り付け協力(片付は4月5日予定)。

尚、7年度は町民運動会(第77回)は雨の為中止となった。

以上、連合会員の皆様には1年間の活動まことに御疲れさまでした。来年もよろしくお願ひ申し上げます。

令和7年度連合会活動の総括

自治会連合会会長 朝倉 隆

自治会連合会の活動は①連合会主催の会議・研修 ②部会活動(広報部会・体育教育部会・防犯防災部会) ③町や諸団体への共催・賛助活動の三つに分けることができます。毎年4月の定期総会で年間の予定を立案します。令和7年度もほぼ予定通りに進捗しました。

①連合会主催の会議・研修会

⑦定例会／毎月第二木曜日に開催し、各自治会正副会長が出席します。7年度は12回開催されました。町などからの回覧依頼、連合会長が出席した審議会などの報告、各部からの報告を受けました。

⑧特別委員会／原則第三火曜日に開催し、各自治会の会長が出席します。7年度は12回開催しました。自治会の課題解決に向けた話し合いをしました。

⑨防災研修会／6月21日(土)「避難時運営ゲームHUG」を開催しました。

⑩視察研修会／11月11日(火)静岡県松崎町を訪問し避難訓練など防災について考えました。

⑪広報部／年4回の「自治会だより」



令和7年度 部会活動報告

視察研修会

1 令和7年度方針

①南海トラフ地震の想定震源域にあたる駿河湾に面する自治体を視察して平時における避難訓練などにおける課題について相互理解を深める。②真鶴町と視察先におけるそれぞれの自治会の課題について相互理解を深める。③それぞれの市町村の歴史背景なども理解を深める。

2 視察先・松崎町(11月11日(火)) 15名(参加)

視察内容については第121号(前号)をご覧ください。以下は感想を列挙します。

●静岡県は独自の「静岡県ふじのくに防災士会」を組織して防災対策を強化している。●県民の防災意識が非常に高く、松崎町においても防災訓練の回数も多く、参加率も非常に高い。●小学生に対する防災教育も年間を通して充実している。

真鶴町においても防災意識の向上を目指した広報や若い方の防災訓練参加等今後の課題が見えた研修会だった。

教育体育部会

●前期第一回成人学級 6月21日(土) 笑って平和な日常を〜講師 楽笑会 浦鐘家清五楼氏他 参加者49名 講談も勉強になり、楽しく聞かせていただきました。

●前期第二回成人学級 6月26日(木)

(2) 防災訓練と防災講演会

9月に町の総合防災訓練を、4カ所の指定避難場所に分かれ実施。本年は真鶴中学の生徒全員、各々の居住地の自治会が避難する避難場所での防災訓練へ参加。防災備品(救急用品)の消費期限切れが確認されたので、町へ改善を要求。6月21日には疑似体験学習として、「HUG(ハグ)」避難所運営ゲーム学習会を実施。

広報部会

◆自治会だより 年4回発行(6月、9月、12月、3月 全号カラー)

○6月号(119号) 連合会長年度挨拶 寄稿文 (プロフリーダイバー 岡本美鈴氏)

○9月号(120号) 避難所運営疑似体験学習「HUG」体験報告 寄稿文(HUG参加者感想)

○12月号(121号) 連合会視察研修報告 総合防災訓練の振り返り 寄稿文(防災士になられた方々)

○3月号(122号) 令和7年度連合会活動の総括 寄稿文(永見達也学芸員、栢沼勇魚学芸員)

◆ホームページは2023年4月に開設し3年経過。

防犯防災部会

(1) 防犯パトロール

令和7年度はパトロールを9回計画したが天候不良で1回中止となり、8回実施。7・8月の2ヶ月は、自治会毎に夜間の防犯パトロールを実施。10月は全国地域安全運動の一環として、小田原百貨店前で、防犯啓発のチラシ等を買物客へ配布。

編集後記

真鶴町立遠藤貝類博物館学芸員栢沼勇魚様、及び真鶴町教育委員会学芸員永見達也様寄稿ありがとうございます。

参考までに、小さな漁村である村に真鶴という地名は、いつ頃使われたか、解れば一筆お願いします。また、真鶴半島は自然公園であり、半島の自然公園は、真鶴の特徴の一つでもあります。その真鶴を自治会連合会が微力ながら「住みよい町」にするために活動(防災及び防犯、地域の祭りその他)しています。町民の皆さんの参加をお願いします。来期も頑張りましょう。(伴野芳久)



自治会連合会ホームページ 自治会の活動内容を紹介しています。是非ご覧ください。



「博物館だよりー 真鶴の海から広がる学びと発見ー」

真鶴町立遠藤貝類博物館 学芸員 ^{かやぬま} 栢沼 ^{いさな} 勇魚



図1：参加者の作品

真鶴町立遠藤貝類博物館で学芸員をしております、栢沼勇魚です。日頃より博物館の活動をあたたかく見守っていただきありがとうございます。

当館では日々、調査研究・展示・教育普及活動を進めております。今回はその中から、イベントと調査活動の近況をご紹介します。昨年11月には、ボランティア団体「貝博サポーターズ」との共催で「紙粘土でウミウシを造ろう！」を開催しました。ウミウシは貝殻を持たない巻貝の仲間です。世界で3,000種以上が知られ、「海の宝石」とも呼ばれる

美しい生き物です。真鶴の海でもこれまでに60種類以上が確認されており、海の豊かさを象徴する生き物のひとつです。当日は紙粘土と絵具を使い、形や色を再現しながらウミウシの生態や体のつくりを紹介しました。会場にはオリジナリティあふれる作品から精巧なものまで多彩なウミウシが並び（図1）、海の生き物や真鶴の海への関心を深めていただける場となりました。

2月には、「海まちらボ海さんぽ三ツ石海岸ビーチコーミング」を開催しました。海岸には、山から川を伝って流れてきた木の実や、貝殻・カニの抜け殻といった生き物の痕跡、さらにペットボトルやビニールなどの人工物まで、さまざま



図3：12月のサンゴ群集の様子

な漂着物が見つかります。これらを観察することで、山と海のつながり、そして人と自然の関係について考えることができます。冬は海に出かける機会が少なくなりますが、海岸を散策してみると新たな発見があるかもしれません。

調査研究活動では、真鶴半島周辺から見つかった分布北限のサンゴ群集について調査を行っています。冬の間も定期的に潜水調査を実施しており、その様子を撮影・記録しながら、低水温期におけるサンゴの生育状況を確認しています（図3）。

冬の海は水温が低く、サンゴにとっては厳しい環境となりますが、群集は大きく損なわれることなく維持されており、季節ごとの変化を長期的に記録していくことの重要性を改めて実感しています。調査によって得られたデータは、真鶴の海的环境変化を把握するとともに、サンゴがどのように分布を広げているのかを知る手がかりとなります。今後も継続的な観察を行い、その成果を展示や講座、広報活動を通して地域の皆さまにお伝えしていく予定です。



図2：三ツ石海岸で見つかる微小な貝殻

真鶴町立遠藤貝類博物館で学芸員をしております、栢沼勇魚です。日頃より博物館の活動をあたたかく見守っていただきありがとうございます。

当館では日々、調査研究・展示・教育普及活動を進めております。今回はその中から、イベントと調査活動の近況をご紹介します。昨年11月には、ボランティア団体「貝博サポーターズ」との共催で「紙粘土でウミウシを造ろう！」を開催しました。ウミウシは貝殻を持たない巻貝の仲間です。世界で3,000種以上が知られ、「海の宝石」とも呼ばれる

美しい生き物です。真鶴の海でもこれまでに60種類以上が確認されており、海の豊かさを象徴する生き物のひとつです。当日は紙粘土と絵具を使い、形や色を再現しながらウミウシの生態や体のつくりを紹介しました。会場にはオリジナリティあふれる作品から精巧なものまで多彩なウミウシが並び（図1）、海の生き物や真鶴の海への関心を深めていただける場となりました。

2月には、「海まちらボ海さんぽ三ツ石海岸ビーチコーミング」を開催しました。海岸には、山から川を伝って流れてきた木の実や、貝殻・カニの抜け殻といった生き物の痕跡、さらにペットボトルやビニールなどの人工物まで、さまざま

「真鶴・発見！歴史と自然」

「真鶴町初の文化財担当学芸員として」

真鶴町教育委員会 学芸員 永見 達也

はじめまして。私は、昨年4月より真鶴町教育委員会に文化財担当の学芸員として配属されました、永見達也（ながみだつや）です。

皆さんもご存知のように町には、歴史・文化財関係の博物館がありません。私は学芸員という職名ですが、「行政学芸員」とよばれる、自治体の文化財保護行政に関わる専門職員として、現在は町の教育委員会に勤務しております。真鶴町では文化財担当の学芸員を設置したのは今回が初めてらしく、私はその最初の職員として採用されました。



私の専門は、古文書などを読解して歴史を解明する歴史学という分野です。その中で、南北朝・室町時代の関東の歴史、特にその時代に活躍していた関東上杉氏一族の研究をしています。学生時代には源頼朝関係の史料も沢山読んでいたので、頼朝の時代も専門に近い分野といえます。

そんな私ですが、昨年11月22日（土）に成人学級にて、「史料で読み解く源頼朝と真鶴」という講座を開催させていただきました。この講座では、私の専門分野である歴史学という視点から、中世に書かれた史料を中心に、頼朝が船出した場所を再検討したり、これまで町の歴史では知られていなかった頼朝と真鶴の新史料を紹介しました。



真鶴町は源頼朝のゆかりの町として数多くの伝承が存在します。歴史研究者としての仕事は、史料から、より史実に近い歴史像を復元することでありますが、町民が大切にしてきた伝承も歴史の一つです。ですが、そうした伝承はいつ頃から生まれたのか、どのように今まで伝わってきたのか、その背景などを研究していくことも大切です。歴史というのは、新史料の発見や古文書の再読解により、従来の通説が覆ることが多々あります。これからは、町の伝承などを大切にしつつ、町の歴史を調査・研究し、さらなる解明ができればと思っています。

最後になりますが、私は真鶴町に来てまだ1年目であり、真鶴の歴史や文化財などは分からないことが多いです。これから沢山勉強して、町の文化財を後世に残せるように努めていきますので、皆さんに色々教えてもらえたら嬉しいです。

